

# 「震災は忘れたころにやってくる」

今年の夏は移動制限のない夏休みだったが、これまで以上の感染者数となり、何事も自由とはいえない夏休みだった。こうした中、東北地方では洪水により避難生活を余儀なくされている人たちもいる。私たちもいつ、いかなるときに災害にあるかもしれない。防災の日を前に新聞部員が神戸の震災記念館を訪れた。その内容を紹介したい。



阪神淡路震災直後には高速道路が崩れた=神戸新聞ホームページより

9月1日は防災の日です。今回は災害について取り上げたいと思います。山梨県では過去に様々な自然災害が起っています。例えば、2016年には大雪により孤立してしまった地域が出てしまつたり、2021年には台風11号、12号の影響によりライフラインが確保出

来なくなるという被害の報告が挙げられた地域もあつたそうです。また、自然災害の中には地震など様々あります。私たちは対策をしていかなければなりません。

## 神戸震災後を訪ねて

私は兵庫県にある「人と未来防災センター」(神戸

## 日頃の震災対策を

発行所  
山梨県立  
都留高等学校  
大月市  
大月2丁目11-20  
編集  
都留高校新聞同好会

取材・広告  
希望の方は  
新聞同好会  
(木内)まで

## 高校生議会

生徒会長の佐藤はなさんが8月2日行われた高校生議会に参加し「高校生の部活のあり方」について提言を発表しました。そこで佐藤さんに終えてみての感想をお聞きしました。

「県議会に参加し、実際に県の将来についての県内の高校生の提言を聞き、また自分自身も事前に提言内容を考え提言を行ってきました。

この県議会へ参加したことで山梨の課題や将来についてなどを深く考え、またその考え方を他の高校生の提言を聞くことで深めることができたので良かったです。

これから、私たちの世代が県の未来、また日本の未来についてよく考え、行動していくことがとても必要だと感じました。」



地震が起つてすぐ瓦礫の下に埋もれ意識を失つてしましました。少しして目が覚めると自分が置かれている今の状況を少しずつ整理しました。火の手が近づいているという声も聞こえるため何とか逃げなければいけないと思いました。

なかなか助けも来ずもうダメかと考えたこともあります。が、私は生きることを諦めませんでした。生きることに執着し瓦礫に埋められてから2時間後私は運良

いまま、火災の被害が多く出ました。この阪神・淡路大震災の教訓を踏まえ、兵庫県では様々な対策が行われています。それは海があることでした。兵庫県では山梨県と大きく異なることがあります。それは海があることで

避難訓練からその状況を想定し素早く正確な判断をすることも大切です。一人ひとりが防災について改めて考え、災害が起つた時に自らの命を守れるようにしていきましょう。(小)

## 日頃からの対策を

都留高校のまわりは山が多く最も想定しやすい被害は土砂災害です。食糧を3日分リュックサックに入れ1人1個用意することが大切です。また、災害時混乱が起つたため普段の避難訓練からその状況を想定し素早く正確な判断をすることも大切です。一人ひとりが防災について改めて考え、災害が起つた時に自らの命を守れるようにしていきましょう。(小)

今年は移動制限なしの夏休みで、この本からは最も「うつ」のリスクを生みやすいといふことになる。対面での授業を通しての皮膚感覚での人との触れ合い、徒歩や体操の授業での適度な運動はオンラインでは味わえない。コロナ禍となつて2年半がまもなく過ぎようとしている。そろそろ元に戻りたい。

自学進取

今年は移動制限なしの夏休みで、この本からは最も「うつ」のリスクを生みやすいといふことになる。対面での授業を通しての皮膚感覚での人との触れ合い、徒歩や体操の授業での適度な運動はオンラインでは味わえない。コロナ禍となつて2年半がまもなく過ぎようとしている。そろそろ元に戻りたい。

